

ニュースレター No.81

会長挨拶

一般社団法人 福岡県助産師会 会長 佐藤 香代

今年も別れの季節がやってきました。学部生、大学院生が新しい道へと旅立っていきます。教員としては一番寂しい月ですが、卒業・修了式での晴れやかな表情を見ていると新しい始まりを予感させる季節でもあります。春風とともに彼女たちにたくさんの幸せが訪れますように。今後の活躍をお祈りしています。



さて、妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施（出産・子育て応援交付金）が始まりました。事業の内容は市町村が創意工夫を凝らしながら、妊娠届出時より妊婦や特に0歳から2歳の低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てるための面談や継続的な情報発信等を行うことを通じて必要な支援につながります。それとともに、妊娠届出や出生届出を行った妊婦等に対し、出産育児関連用品の購入費助成や子育て支援サービスの利用負担軽減を図る経済的支援（10万円）を一体として実施する事業です。市町村の創意工夫が求められるため、内容は全国一律ではありません。

給付は現金が多いようですが、現金だと用途が不明瞭のため産後ケアの自費負担分をクーポン券にする等、母親の心身のメンテナンスに有効に使われるような仕組みが必要だと思います。

また、「伴走型」と謳ってありますが、多職種がピンポイントに関わっており、妊娠中から一貫して同じ人が関わるマイ助産師のような仕組みにはなっていません。助産師としてどのような形で伴走ができるのか考えていく必要があるでしょう。大阪市は母子健康手帳交付時に全例保健師が面接、産後は大阪府助産師会が新生児乳児全戸訪問、正常の事例はすべて助産師が訪問します。2023年4月からは、出産後訪問予定の助産師が妊娠8か月時に妊婦と対面できるようにする事業がスタートするそうです。

日本の少子化は止まりません。2022年の出生数は前年比5.1%減の79万9728人でした。「異次元の少子化対策」とは何でしょうか？出生数減少に有効な手を打たないまま歯止めがきかなくなってしまった今、社会のあり方を変える大改造が求められているのではないかと思います。

災害対策委員会より

災害対策委員長 木下広江

2022年12月3日の安否確認訓練（達成率 会員数303名中209名の回答:64.3%）では、Googleフォームを活用し回答しやすいという意見も多かったのですが、会員数の多い地区では連絡方法が統

できないなどの課題もみつきり、災害時の連絡体制強化にむけて再検討します。

2023年1月28日に開催した災害対策研修会（福岡県教育会館にて対面開催：申込者22名、参加者20名）は、九州看護福祉大学の中川武子先生による、『災害支援時に求められる医療者の心得』というテーマで、災害と災害看護の基本的知識等の講義、トリアージタグや簡易トイレなどに実際に触れてみる実習、グループワークと、非常に充実した内容でした。参加者の満足度も高く理解が深まったという声が多く聞かれました。

また、今年度より、九州沖縄地区災害対策委員会が立ち上がり、各県の災害対策委員長がLINEグループで繋がり連携をとることとなりました。各県の取組みを災害時に活かせるように、情報交換を進めてまいります。

いつ起こるか分からない災害に備え、福岡県助産師会の防災マニュアルの改訂も進めています。引き続き、会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。



福岡県における産後ケア事業の今とこれから…

妊娠・出産包括支援委員長 豊田晴子

現在、福岡県助産師会では16市町村との産後ケア委託事業契約を結んでいます。

16市町村の内訳は北九州市、宗像市、嘉麻市、飯塚市、桂川町、福岡市、糸島市、那珂川市、春日市、大野城市、太宰府市、筑紫野市、八女市、みやま市、柳川市、大川市です。

なぜ自治体と助産師会とが契約をする必要性があるのか？と疑問に思われる方も多いと思います。福岡県助産師会だからこそ担える任務があると思います。

自治体と助産師会が契約を交わした産後ケア事業については、ショートステイ（宿泊型）、デイケア（日帰り型）、家庭訪問（アウトリーチ）、母乳育児相談等です。それらが県内に点在しています。会員の施設で行え、里帰り先でも、また最近ではご実家だけではなく親戚先からのご依頼もあります。必要な時に利用者目線にたった必要なサービスを提供出来ることは、自治体にとっても、ご利用頂く方にとっても大きいメリットではないかと思えます。

内閣府は、少子化社会対策大綱にて『産後ケア事業は、2024年度末までの全国展開を目指す。』と言っていますが、「我が自治体には助産院や産婦人科が無い」「産後ケア事業がスタート出来ない」と悩んでいる自治体担当の方、福岡県助産師会へご一報下さい。近隣の助産師会員はじめ産後ケアに熱い助産師がバックアップいたします。

私たち助産師は、産後ケアを実施しながら未来を描いています。このケアがこの子の思春期この子の将来にどう影響するのか。また産後絡み合った色々な問題を紐解きながらの産後ケアを行っているからこそ自治体訪問をさせて頂いた時、高い評価を頂けているのではないかと考えています。

これから産後ケア事業を実施していきたい方、お問い合わせをお待ちしています。

研修会報告～新たな研修方法を取り入れて～

教育委員長 松藤美由紀

2022年度より日本助産師会のシステム機能を導入し、約5ヶ月間に渡るオンデマンド研修会を無事に開催することができました。初めての試みのため参加者の方々には、大変ご迷惑をおかけした部分もありましたが、日本助産師会のシステム係の方などに助けられ無事に乗り越えることができました。お陰様で全国から延数910名の方にご参加いただく事ができました。本当にありがとうございます。2023年度の研修会は、オンデマンド研修会を7講座、対面での研修会を1講座準備中です。来年度も、助産師の質と知識の向上に役立てられるような研修会にしたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

組織強化委員会より

組織強化委員長 江島峰子

12月に勤務助産師部会の会員を対象に満足度調査を行いました。様々な情報が提供されている助産師会のホームページや、全国から研修案内が届くメーリングリストの活用が十分になされていないことが明らかになり、これらの周知が今後の課題となりました。また、地域での活動に関心を持つ勤務助産師は多く、新生児訪問や産後ケアアウトリーチへの同行研修など、地域で働く助産師とのつながりを作る活動を望んでおり、それらの充実も今後の課題です。

国家試験が終わった2月下旬、遠賀中央看護助産学校、久留米大学大学院助産学分野、聖マリア学院大学の3校への学校訪問を行いました。昨年作成した「5分でわかる福岡県助産師会」動画の上映のあと、助産師会の活動内容などを経験をお話しました。多くの研修にアクセスできること、様々な場所で活動する助産師と出会うチャンスがあることなど、入会するメリットは伝えることができたのではと思います。就職をひかえた学生の方々も真剣に聞いてくれていたようです。この学校訪問が、会員の増加につながればと思います。



安全対策委員会より

安全対策委員長 助産所部会長 田嶋昌枝

2022年度上半期は『産科医師の視点からみたガイドラインとはなにか』と題して、医師から見たガイドラインの位置づけについて貴重な講義を受けることができました。

分娩の取り扱いにおいて妊産婦と助産師の取り交わす契約は『安全性の契約』であること、さらに安全性の契約である以上、助産師は「同情」や「信念」より以前に「安全」を求めるスタンスで行動

すべきであり、その客観的拠り所がガイドラインであると講師のご意見を頂きました。受講された助産師は安全対策の上で「助産業務ガイドライン」の遵守に立ち返った方が多かったのではないのでしょうか。

下半期は2023年3月18日に木藪弁護士を講師に迎え『妊娠・分娩中のケア、および産後ケア時の助産師が負うべき法的責任』と題して講演頂きます。助産師が多忙な業務中、いつ誰が当事者になるかわからない。自分の身の上にかかるかもしれない事例を様々な角度から検討して頂く講演会を企画いたしました。

また、産後ケア事業受託者の実態調査を予定しております。今後も産後ケア事業を始め安全対策の強化に一層まい進してまいります。皆さまのご協力をお願いいたします。

三部会の活動

保健指導部会長 松山まどか

2023年2月11日、保健指導部会会議及び交流会を助産師会館にて開催いたしました。

今年度の事業報告と次年度の事業計画について検討しました。また産後ケアの問題点について勉強会を兼ねた交流会をいたしました。

各自の行っている産後ケア事業について報告し、現状と問題点など報告してもらいました。新たな形態として、保育所が経営する事業所の中で産後ケア事業を行っている会員もあり、今後の産後ケア事業の展開の方法も予想されました。また、母と子の安全を守るには、人の確保が不可欠で、それに伴う人件費を考えるとなかなか厳しい状況です。

実家に帰ってきたと思って過ごしていただければと、ほぼボランティア精神で、採算度外視で母と子の安息のために、ケアを行っている会員もおり、熱い思いを嬉しく思いました。しかし、今後の助産師としての産後ケア事業の存続のためには、料金やケアの内容について、行政と話し合っていかなければならないと痛感させられました。

コロナ禍での対面会議で参加しにくかった会員さんには申し訳なかったですが、久しぶりの対面での会議ができ、顔を見ての会議はやはり良いと感じました。Zoomだけでなく対面での会議の機会が増やせたらいいと思います。

勤務助産師部会長 安河内静子

2022年12月17日に、メデラ株式会社 佐竹マータ氏をお迎えして研修会を実施しました。テーマは、「分娩時の医療介入があっても母乳育児の成功へつながる支援～医療者に知ってもらいたいエビデンスの紹介」でした。帝王切開、無痛分娩、早産など、医療介入を伴うハイリスク出産後の母乳育児支援に対し、助産師としてできるケアは何なのか？改めて考える機会となりました。研修内容は、4月以降にアーカイブ配信を予定しております。

交流会では、コロナ禍で妊産婦さんに起こっている変化について、妊婦教育の重要性を再認識しました。次年度も交流会を企画します。ご参加お待ちしております。

福岡市マタニティスクール報告

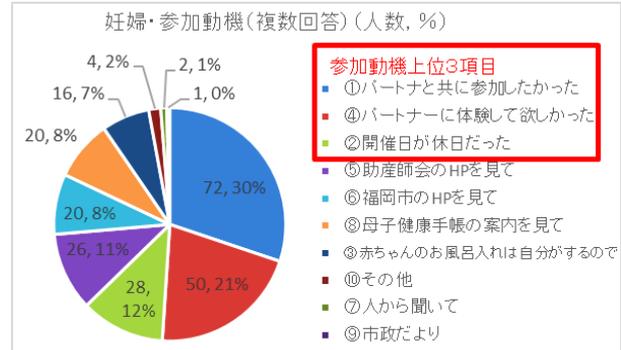
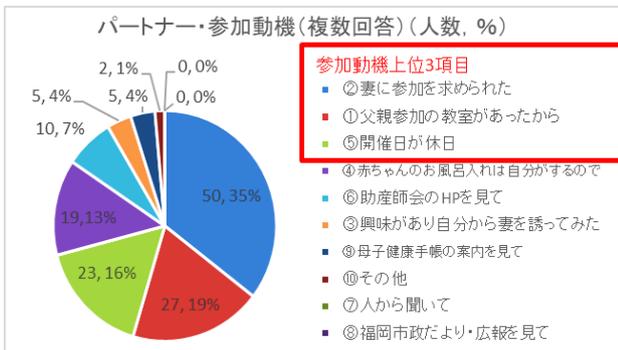
福岡地区理事 福澤雪子

福岡市委託事業「働くママとパパのマタニティスクール」では、2022年度も1日4組に参加者を限定し、感染予防に務めながら対面実施を継続しています。

コロナ感染症は2023年5月より感染症分類が5類に移行することが決定し、5類移行後の対応策案では、マスク着用は個人の判断に委ねられ、状況に応じて着用を推奨する場面も例示されました。

マタニティスクールで執務して下さる方々は医療機関勤務者も多いことから、執務時のマスク着用は必須であり、妊婦は重症化リスクが高いため、市担当者と協議して対応して参ります。

2022年度の参加者アンケートの一部を紹介します。妊婦はパートナーと一緒に受講してほしいという思いが強いことが見て取れます。また、妊婦・パートナー共にマタニティスクールに対する満足度は極めて高く、臨床ではなかなか聞けない事や相談事をプロに話せて良かった、産後の生活や育児のイメージがつかめ不安が軽減・解消したという声が多くあり、高い評価を得ています。



地区活動紹介 (久留米地区) 「歯のはなし」講演会

久留米地区理事 東 幸子

久留米地区では去る2月19日、落合聡先生(小児歯科医師)による、「子どもの口の健康」～歯を大切にすることが自分の健康を守る第一歩～と題した講演会を開催しました。

内容は乳歯、永久歯、虫歯について。虫歯になりにくい生活習慣。虫歯を気にせず母乳育児を長く楽しむためには。嫌がらない歯磨き、コツ。大人が気を付けること。フッ素、キシリトール。低フォスファターゼ症等最新情報も学びました。会員にとっても、学びの多い講演会となりました。

コロナ禍の為今回は6組の少ない参加でしたが、講演会後のアンケートで、話が分かりやすく参考になった。お菓子の食べ方、フッ素、洗口の効果など知識がたくさん得られた。日常的ケアの様々な話が聞けた。歯の状態でわかることを知った。歯が生える前に出来ることを知ることができたと好評でした。父母一緒によく見かけますが、父だけの参加もあり、参加者は全員がメモを取りながら聴講され子育てについて意識が変わってきていると感じました。

終了後の反省会で、助産師のことを知って欲しいので、自己紹介の時間があつたがよい。と意見が出ました。

この講演会も10年以上続いています。今後も継続開催し啓発していきたいと思ひます。



水と、空気と、睡眠と。

TUK東洋羽毛

Lumone よく眠った人には、かなわない。
ルモネ

世界に誇れる羽毛ブランド
HARUO DOWN

いい羽毛からしか、
いい羽毛ふとんは生まれません。

GOOD DESIGN
HARUO DOWN

無料 睡眠セミナー

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した社員が講師を務める充実したセミナーをご用意しています。正しい情報を得て睡眠習慣を見直し、イキイキと健康的な毎日をお過ごしお手伝いをさせていただきます。

今よりもぐっすり、幸せな毎日のためのヒントがきっと得られるはずです //

睡眠セミナー講師を無料で派遣いたします

<お役に立てる主な研修>

- ★ **医療安全対策研修** 睡眠不足とヒューマンエラーの関係や、交差勤務における睡眠のコツなど
- ★ **メンタルヘルス研修** 労働者におけるストレスと睡眠の関係
- ★ **学校保健委員会** 「学力」や「部活動」、「スマホ・ゲーム」と睡眠の関係
- ★ **高齢者の睡眠ケア** 高齢者の睡眠マネジメントや、これだけは知ってほしい生活習慣

※オンラインセミナーも承ります。
※他、施設内容等のご相談承ります。(事前にお打ち合わせをお願いする事も可能です。)
※(一社)日本睡眠教育機構認定の睡眠資格制度です。

東洋羽毛九州販売株式会社 福岡営業所
〒812-0062 福岡県福岡市東区松島1-15-28 ☎0120-104-557

ママと赤ちゃんのコンビニエンス

●● 産科用品の自動販売機 ●●

院内サービスショップとして
24時間いつでも利用していただけます。

GLORY
天用機売機 AE-20V

- 1台で90品目販売、豊富な品揃えができます。
- 販売価格は5,000円まで。もちろん、千円紙幣も使えます。
- 売上集計もワンタッチで、ジャーナル印字も行えます。

陳列コラムを回転させながら商品が選べます

↓

投入金額以内の陳列コラムの扉を1つだけ開けて商品を取り出せます

外形寸法: (W×D×H)
800×685×1830mm・重量150kg

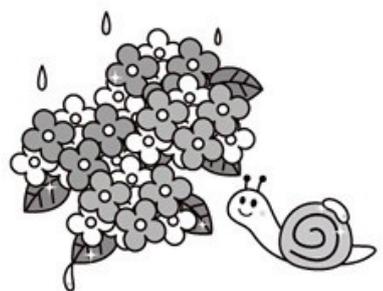
企画・発売元
SEBE セベ産科用品株式会社
〒812-0016 福岡市博多区博多駅前4丁目11-11 TEL (092)472-4316

産褥社 (胎盤処理)

〒811-1313
福岡県福岡市南区日佐3丁目
34-16

TEL : 092-581-6588

代表 : 村上 士郎



ホームページ会員登録のお願い

福岡県助産師会の会員の皆様で会員登録がまだお済みでない方におかれましては、会員登録をお願いいたします。

手順は、福岡県助産師会 HP⇒助産師の方へ⇒会員登録について⇒会員登録フォームに必須事項入力となります。これまで、日本助産師会事務局から福岡県助産師会会員の皆様への情報提供手段として、地区理事や各部会長を通して伝達しておりましたが、9月より福岡県助産師会ホームページ内「会員ページ」に掲載することになりました。会員ページにログインされますと、観覧制限しているページを見ることができます。

会員募集

一般社団法人 福岡県助産師会では、会員を募集しております！！

ご友人や職場の方をお誘いし、一緒に活動してみませんか？

入会をご希望される方は、下記 QR コードより福岡県助産師会ホームページにアクセスし、助産師の方へ⇒入会案内のページにお入りください。または、下記担当者への連絡をお願いいたします。



【福岡県助産師会 会計 山口美津枝】

住所：〒807-1134

北九州市八幡西区茶屋の原 4 丁目 1-12

電話：090-9607-3331

メールアドレス：3enyanko@gmail.com

おひとりでも多くの皆様の入会を心よりお待ちしております。



【編集後記】

今年度3回目のニュースレターをお届けします。会員の皆様の活動を発信し共有できるツールになればと思っています。今年度はホームページがリニューアルされ、今まで以上にタイムリーな情報発信が出来るようになりました。ぜひご活用頂ければ幸いです。

広報・渉外委員 後藤・村尾・安河内・阿部

一般社団法人 福岡県助産師会 ニュースレター 第81号 2023年3月

発行人 一般社団法人 福岡県助産師会 会長 佐藤 香代

〒810-0014 福岡県福岡市中央区平尾 1-3-41

電話・FAX 092-521-2025 <https://jyosanshi.net>



